大阪毎日新聞　昭和　年　月　日　新聞

藤永田造船所の職工（大阪毎日）怠業持續に決す

敷津工場を出て大示威行列

造船所前の警戒を突破

藤永田造船所の勞働爭議に就き賣行委員等は七日午後一時半本工場を引揚げ敷津工場に歸つた事は夕刊所報の如くであるが前記委員は友愛會聯合會から直接敷津工場に歸つた村田李松外二名と密議を凝した上直に中食後工場南側堀割に面した新設倉庫に集まつて盛んに勞働歌を高唱し或は交々起つて熱辯を揮ふ爭氣勢を揚げてゐる二千餘の職工の許に赴き今後の對策につき滿場に諮つた結果現在の怠業態を持續して目的貫徹の爲め飽まで奮鬪する事に決したので午後三時半十六名の賣行委員等は七日朝來の行懸り上府廳に加々美特高課長を訪ふべく職工の歡聲に送られて出發した次で午後四時に至るや全職工は門外に雪崩出で數隻の渡船に分乘して市電木津川線終點運河埠頭に上陸し隊伍を整へ長蛇の陣を作り電車路を北へと示威運動を起すと途中新田汽船、村尾、小野清兩造船所職工數百名も應援に參加し五時西區新戎屋町なる藤永田造船所本社前の物々しき警官隊の警戒線を突破して盤高に勞働歌を唱へつゝ駈足で通過し順路所主永田三十郎氏本邸前より大正橋に出で市電高津線路を東に向ひ六時下寺町停留場附近の街路で先發の本工場職工數百名と落合つた上友愛會主催の勞働問題演說會場なる下寺町一丁目大蓮寺境内へと雪崩込んだ

拍手裡に九時半無事閉會を告げたが當夜は全市警察から無慮八百名大部分は勞働服に身を變して會場内外を警戒するなど當地では全く異例といふべき程の物々しい警戒振を見せた

造船所側更に回答

加々美課長からの招致で熟考の結果

別項の如く職工側の賣行委員から訪問報告を受けた加々美特高課長は更に午後八時造船所側の永田社長前野顧問外三名を官舍に招致し職工側の主張堅固なる事を傳へ約三時間に渉り協議を凝らした結果造船所側は熟考の上八日午前十時より正午迄に何分の決定をなし正式に職工側に回答すべき事を誓ひ午後十一時一同は官舍を辭去した

飽く迄氣勢を昂めた勞働問題演說會

内外を固める私服八百名の警官

かくて演說會は七時開會友愛會の島氏の開會の辭に次いで東京本部の松岡、神戸聯合の藤岡兩氏以下十數名の辯士交る〳〵壇上に突ッ立つて資本家の橫暴、官憲の壓迫を痛烈に攻擊し割る〻が如き

昨夜の藤永田爭議批判演說會